



なか むら まさ はる
中村 勝春

けん と く ら ぶ
県都クラブ

救急医療体制のM I E - N E T 事業について

問 救急搬送人員が年々増加する中、救急患者を早期に適切な医療機関に搬送できるようにすることが期待される。

そこで、救急現場からの患者情報を医療機関とリアルタイムに共有できるネットワークを構築することにより、病院へのレスポンスタイムの短縮が期待できるM I E - N E T 構築事業の現状と早期実施について問う。

答 タブレット端末を使用し、救急隊と医療機関が傷病者の情報を共有するM I E - N E T の現在の進捗については、既に消防本部と各医療機関にタブレット端末が配付され、これまで取り扱い訓練を実施してきたところである。

当初、平成26年11月頃から試行運用ができる予定であったが、システムの不具合等により運用時期が遅れ、現在も試行運用には至っていない。

今後の見通しとしては、現在三重県において運用に係る細部の調整が図られているとのことであり、消防本部としても各医療機関や健康福祉部等関係機関とさらに連携を図りながら運用開始に向け取り組んでいく。

●その他の質疑・質問●

- 前業市長自身の4年間の評価
- モーターボート競走事業の経営状況は
- 豪雨対策として浸水被害のあった西里ノ上地区の対策は
- 津地域の出張所運営について
 - ・地区相談窓口の設置と各種団体の出前出張受付を
- いじめ防止対策について
- 公共下水道への接続率向上対策は など



▲救急患者を少しでも早く適切な医療機関へ



かわ ぐち まどか
川口 円

けん と く ら ぶ
県都クラブ

防災対策について

問 同報系防災行政無線が「聞こえない」「聞こえにくい」という状況の中で、種々対策は講じているものの、目立った改善策となっていない。

そこで、多くの方々が希望する戸別受信機や防災ラジオを一刻も早く市内全世帯に配布するよう強く望むところであるが、これらの早期設置への取り組みに向け、津市の今後の意気込みはいかがか。

答 同報系防災行政無線については、皆さんに聞こえるようにするため再三対策を講じてきたところではあるが、「聞こえない」「聞こえにくい」という方はゼロにはならないものと考えており、何とかしなければならないという気持ちは持っている。

戸別受信機や防災ラジオなど色々な選択肢はあるが、電波の受信状態や設置に係る費用等それぞれの検討課題を分析し、どのようにスタートして、どのように充実させていくのかという段階的な整理をしていくことになると思っている。

これらのことを検討するよう市長である私からも、危機管理部長に改めて指示していく。

●その他の質疑・質問●

- 空き家問題について
 - ・今後の執行体制は
- 人口減少問題について
 - ・企業誘致への取り組みは
- オープンデータの活用について
- ホームページ・津うなびの運用について
- 中小企業・小規模事業者の支援について
 - ・今後の取り組みは など



▲設置が希望される戸別受信機と防災ラジオ